

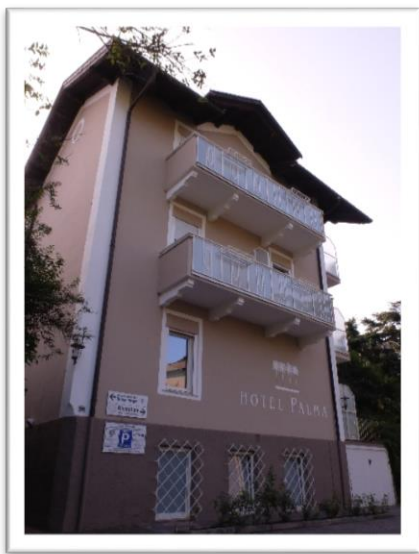
メラーノ滞在とオルトラー登頂の記録

序章

いつものように、夏休みにどこか登りたい、とざっくりした相談を井上氏にしてみたところ、イタリアのオルトラー（Ortler : 3,905m）はどうか、と言う。ではそこにしよう！とアルパインガイドの手配を依頼。私は、渡欧の前週に富士山に登り、自身最高峰への登山に備えた。

アルパインガイドは、2015年にヴィルトシュピッツェと一緒に登ったトーマスが来てくれるはずだったが、怪我をしてガイドできないということで、その友人のペーターが来てくれることになった。

2017/8/26 土



ホテルパルマ★★★★に4泊。

深夜、羽田からフランクフルトを経由してインスブルックへ。インスブルック中央駅のはずれから長距離バスに乗ってイタリアのメラーノへ。重いスーツケースを引きずって、石畳の道を坂の上のホテルまで歩いた。これがかなりしんどい行程だった。バス停は駅近くにあるもの、タクシー乗場があるはず、と踏んでいたのに、バス停は街の中心部近くにあり、駅は街のはずれにあるようだ。よく調べていなかったことを反省。

大汗かいて予約したホテルに着き、チェックインすると、

“この荷物で歩いてきたのか！”

レセプションのイケメン男子が驚いていた。この日ほど部屋に荷物を運んでくれるベルボーイ（というか、レセプションの男子）に感謝した日はなかった。まあ、大荷物を持つての旅行は年に一度だけなのだが。

2017/8/27 日

時差ボケもあって、さっさと寝てしまった私は朝食に一番乗り。しっかり食べ、美味しいカフェラテに大満足。

まずは、街のインフォメーションに行き、museumobil Cardを買う。南チロルの公共交通機関、ロープウェイや登山列車などの利用と、美術館や博物館に入場できる、お得な観光カードだ。ホテルでは7日券しか扱っていなかったため、3日券がほしい私はインフォメーションへ。オープンまで時間があつたので街中を散策。犬を連れて、カフェで朝ごはんの人たちがいる。優雅～

museumobil Cardを買ったら急いでメラーノ駅へ。メラーノ駅からボルツァーノ駅まで電車に乗り、ボルツァーノ県立考古学博物館に向かった。

ボルツァーノで約5300年前の氷の世界から現れたアイスマンに会うこと - 今回の旅の目的のひとつだ。数ある展示物はとても興味深い、何しろ科学的な説明をした英語を読んで理解できるほど語学堪能ではない。というか、日常会話だってあやしい（汗）。読むのはあきらめて、見るほうに専念。広く不自然なスペースの壁に小窓。アイスマンの部屋だ！横たわっているミイラがアイスマン。想像よりずっとずっと小さい。氷河の中、寒かっただろうな。

博物館の後、次に目指すのは MMM – Messner Mountain Museum。ラインホルト・メスナーは山屋なら誰でも知っている、史上初 8,000 メートル峰全 14 座無酸素登頂を成し遂げた登山家。彼の作った山岳博物館がドロミテ、南チロルに数か所にある。歩いていこうと思ったが、暑いというか、焼けるようなというか、日差しが強くていやになり、駅まで戻ってタクシーに乗った。10 分ほどで着いたのは、行きの電車から見えていた古城のような場所。おお、ここだったのか！

展示されていたのは山の絵画や山にまつわる彫刻、山の道具なども。とにかく広くて見どころ満載。山の中腹にあるので、ボルツァーノの街や、遠くには魔女の山 Sciliar も見える。古城の中も外も大満足である。ずらっと登山家の名前が書いてある一角には、日本人登山家の名前もあった。知っている名前を見つけると、まるで友達に会ったような気分になる。

ゆっくり見たかったが、メラーノまで電車で 1 時間、さらにホテルまで 30 分近くあるので、急いで駅へ。そして電車へ。メラーノへ戻ると夕立が降ってきた。強い雨の後、虹が出ていた。



メラーノの朝。



アイスマン（復元）



MMM Firmian

2017/8/28 月

今日は朝から曇り空、あまり天気がよくない。遠出はせず、メラーノには古城や教会など、見所が多いので、それらを回りつつハイキングすることにした。

初めに Tirol Castle へ。月曜日は休館日（想定範囲内）。「チロル」という地名はここに住んでいたチロル伯に由来するらしい。次は、そのすぐ下に見える Fontana Castle へ。博物館のようだ。ここも外観だけ。

次は – 何の計画も立てずにいたので、ハイキングの看板を頼りに“リンゴの道”なるものを歩いてみることにした。この道を歩くと、ほかにも辿りつける城があるらしい。

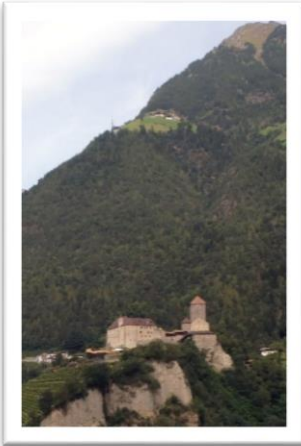
“APFELWEG”とはよく言ったもので、ずっとリンゴ畑の中を通っている。日本のリンゴの木とは違って、ブドウの木のような大きさだ（もちろんツルではなく木だが）。

次に着いた城は Aura Castle。Tirol Castle のようにきちんと修復されているようではないが、今も人が住んでいるのがわかる。古城に住むのはどんな身分の人なのだろう。

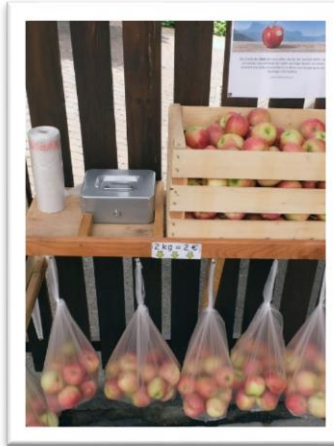
再びリンゴの道を歩いて着いたのは Seminar in Dorf Tirol。廃校か？よくわからない。

お腹も空いたので、街の方へ下りていくと、大量のリンゴ発見♪ 2kg で 2 ユーロ、とあるが、さすがに食べられる量ではないので買わない。とても食べたいけど買わない。

カフェに入って、大好きなアプフェルシュトゥルデルとカプチーノをいただく。このまま昼寝したい気分だが、夕方から雷雨の予報なので、早くホテルの近くまで移動しよう！歩いてよかったのだが、特に見どころもなさそうだったので、バスに乗った。museumobil Card でももちろん無料。見覚えのある辺りでバスを降りて、まだ雨は降らなさそうか？チロルの旗がなびいている塔（Polveriera というらしい）を目指した。塔の外壁は石造りだが中は鉄の階段が上まである。登ってみると、旧市街が一望できた。すぐそばには教会、クアハウス、街の中心部を流れる川、その向こうには山。いつまでも眺めていたい風景だ。が、ドッカーン！と近くに落雷。そして土砂降りに。びしょ濡れでホテルに戻ったが、シャワーを浴びている間に雨はやんでいた。



チロル城



リンゴの無人販売



メラーノ旧市街を見下ろす。

2017/8/29 火

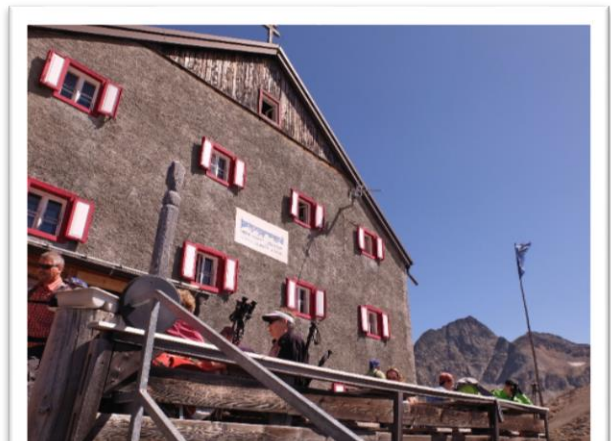
快晴。早起きをして朝食もかき込む勢いで食べ、坂を転がるようにメラーノ駅へ向かった。オルトラーに向かう前に、やはり3,000mを超える山を歩いておきたい。ということで、井上氏に聞いていたマソ・コルトに向かった。

メラーノ駅からナトゥールノ駅まで電車に乗り、バスに乗り換えて終点まで行く。そこからロープウェイに乗ると、もう目の前がグルヴァンド（Grawand : 3,251m）だ。山頂までほんの少し歩いてだけで息が上がる。でもここが本日の最高点で、あとは少々アップダウンありつつも周回してマソ・コルトに戻れる。

Schöne Aussicht（独語） / Bella Vista（伊語）（どちらも“素敵な眺め”という意味）という山小屋を目指す。数年前にオーストリア側から目指したが悪天候で断念したところだ。冬はスキー場のゲレンデなので、しっかり道が付いている。だが、山小屋は見えない。歩いている人も少なく、心細くなりつつも、看板を頼りにガンガン進む。谷を下



シュナルスタール



イタリア版の天望荘

りて、上り返したところにその山小屋はあった。まさに絶景！青い空に、正面は森林限界を超えて黒々とした山々、見下ろせば深い谷。”素敵なお眺め”を堪能。

山小屋の人に国境までどれくらいかかるか聞くと、10 分くらいだと言う。山小屋から平行移動するように歩くと、大きな岩に”Hochjoch”と書いてあった。ここから先がオーストリアだ。まだ行程は長いし、またバスと電車を乗り継いで、夕食までにホテルに戻らなければならないのでタッチアンドゴーで下山開始。

ロープウェイで簡単に登れる東側より人が多いのはストイックな人が多いから?! 花が咲き、羊が放牧されている中を歩いてロープウェイの山麓駅に無事到着。

ちなみに、前述の登山家、ラインホルト・メスナーは、ナトゥールノの Castel Juval に住んでいるらしい。そしてここもメスナーの作った山岳博物館のひとつであるようだ。

2017/8/30 水

8:45、ホテルのレセプションに行くと、

“あなたのガイドが来ていて、そこでコーヒーを飲んでいるよ”

という。9:00 の約束より多少遅れることを想定していたのに早い！4 泊お世話になったメラノのホテルをチェックアウトし、ガイドのペーターの車でスルデンに向けて出発。いい天気だ。今日も山が美しい。

オーストリア側に向かう右の道と別れると、いよいよ山奥という風情。くねくねと高度を稼ぐ。

“あれがオルトラーだ”

とペーターが言った。北壁には氷が付いているのが分かる。

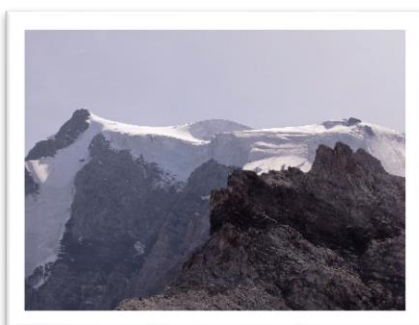
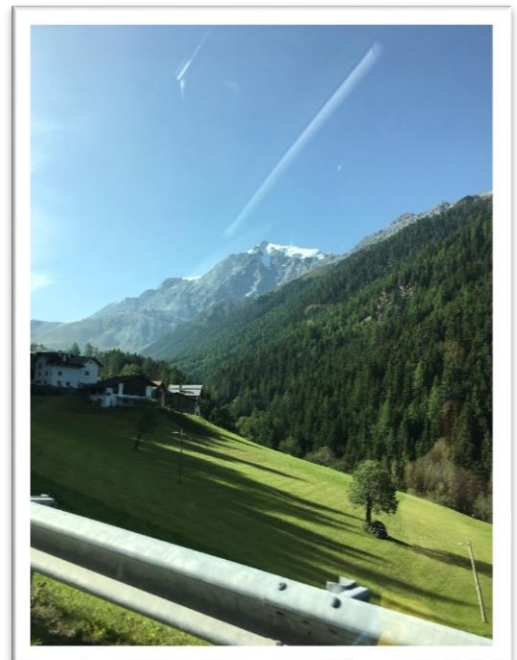
“こんもりしているところが山頂？”

と聞くと、

“あれのもっと向こう”

という。山頂は見えていないらしい。

リフト乗場の横に車を停めた。ここでギアのチェックをお願いした。忘れ物があって登れないなんてことのように、くらのつもりだったが、私の靴にアイゼンを付けてみたり、自分のアイゼンなのか（レンタルではないのか）と確認したりする。真面目な山岳ガイドである。



手前は岩山、奥は氷河

10:50、まずはリフトに **車から見たオルトラー**

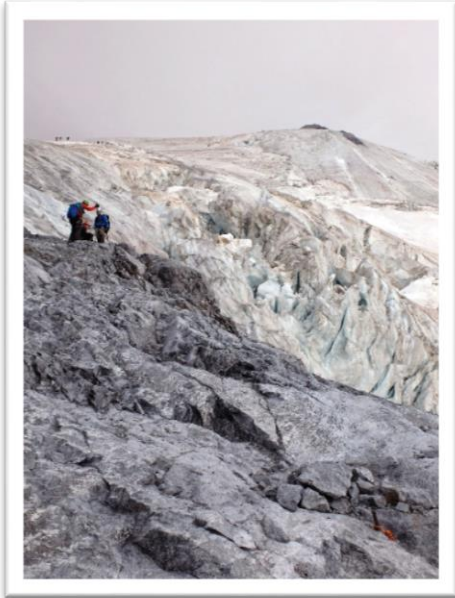
乗り、そこからパイヤーヒュッテ（Payer Hütte）までが今日の行程。時間があるからゆっくり登ろうとペーターは言う。その言葉どおりゆっくり歩き、途中のタバレッタヒュッテ（Tabaretta Hütte）で休憩し、14:40 にパイヤーヒュッテ到着。どうやら高度順応を気にしてくれたようだ。

夕食の時間まで、明日目指すオルトラーを眺めて過ごす。山小屋から見える範囲は岩山、その先の氷河の取り付けが隠れていて見えない。登れるのか？！

天気予報からすると、明日がこの夏最後の登頂チャンスらしい。その後はもう雪が降ると言う。そんなわけで、夕食時間の食堂は大混雑。私の隣にオーストリア人のペーター、目の前に座ったのはイタリア人ガイドとその客のオランダ人夫婦。どのテーブルもそんな感じなのだと思う。国際色豊かなディナータイム。ただし、アジア人はどうやら私だけ。

2017/8/31 木

朝食を取って、まだ真っ暗闇の中、5:40 出発。ヘッドランプが連なる。私はペーターの後をついていく。



岩と氷の世界

辺りが明るくなったころ、氷河の取り付きでアイゼン装着。出発しようと岩の上に立つと、岩がツルツルで早速滑って転んだ。うう！膝を捻ったようで立てない。痛みがなくなるまでしばらくじっとしていた。このまま戻るのか？！立ってみたら、大丈夫そうだ。

しかしこの辺り、急斜面に、クレバスに、私のレベルで大丈夫なのか、今更ながら不安に思う。行くしかないのだが。

気を取り直して再出発。アイゼンを引っ掛けないように、いつもの雪山よりさらに慎重に歩く。雲の中なのか、周りは真っ白だ。山頂も分からないし、ただひたすらペーターの後をついていく。危ないところはペーターの手を借りながら。陽気にハイタッチを求めながら歩く人たちとすれ違った。登頂か？！相変わらず真っ白で、山頂らしきところは見えない。

9:40、目の前に十字架が出現！山頂だ！登頂できた！ペーターと握手＆がっちり抱擁！ありがとう、ペーター。



登頂！

狭い山頂の十字架の前で記念撮影、そしてつかの間の休憩。残念ながら



懸垂下降待ち

景色がないので写真もそこに、9:55 には下山開始。下り始めるとガスが晴れてきて、周りの様子が見えるようになった。見えると恐ろしいところにいるなあ実感する。

上りでは自力でなんとかなくても、ガイドのザイルなしには下りられなかったところがあった。初の懸垂下降。チビで軽量の私でも、ひとに全体重を預けるようなマネは恐ろしい。極力手がかり足がかりを探してゆづり下りる（下ろしてもらおう、が正しい）。両足がついたら真っ直ぐ垂れたザイルから少しずれて、近くの頑丈なボルトにカラビナをかけて、ペーターに向かって叫ぶ。

“下りたよー！”

ところどころペーターに補助されながら、今朝出発したパイヤーヒュッテが見えるところまで来た。だがー

“今朝もここを通ったの？”

とペーターに聞くと、

“もちろん。寝ていたのか？”

と笑う。ひえー！朝は暗くて分からなかったが、断崖絶壁だ。

改めてやりきった感慨に浸る。恐ろしさにも浸る。14:05、山小屋に帰還。

夕方から雨が降り始めた。この雨がもう雪になると言う。そのため、同じ山小屋に2泊するのは私たち2人だけで、ほかの客はみんな今日のうちに下山したようだ。



天地が分からなくなるようだ

夕食時、オルトラーではガイドひとりで何人の客を連れて登れるのか、聞いてみた。慣れた客であれば3人、安全を考えれば2人だ、と言う。そして、友人の頼みだったからガイドを引き受けたが、昨日今日会った客のガイドはリスクが大きい、と言った。昨日のイタリア人ガイドはひとりで体格のいいオランダ人2人を連れていったなあ、初顔合わせだったようだ。

2017/9/1 金



北側オーストリアの山は白くなった

昨日の夕方から雨は降り続けている。下山の準備を整え、9:25、パイヤーヒュッテを出発。朝食のとき、ヒュッテの人が、今日はリフトが動いていない、と教えてくれた。この天気では登ってくる人がいないからということだった。だから、駐車場のあるリフト乗場まで歩かなければならない。

昨日転んだ影響なのか、ひざが痛み始めた。雨を恨みたくなる。それでも駆けるように下り続け、10:40、無事下山。ペーターにインスブルックのホテルまで送ってもらったが、車から見えた山はもう白かった。冬の到来。私の登頂はギリギリだったのだ。

2017/9/2 土

インスブルックは今日も雨。インスブルック空港は何度も降り立っているが、インスブルックの街に出るのはまだ二度目で、観光らしい観光はしたことがない。黄金の小屋根、イン川に架かる橋などを見た後は雨が鬱陶しくて、ショッピングモールに入ってしまった。かわいい雑貨がたくさんあって、買いたい！と思うのだが、私の帰りのカバンには若干のスペースも



黄金の小屋根

ない。冬山道具はかさばるし、重いのだ。だから、必要最小限のおみやげをスーパー（!!）で買って、ホテルに預けた荷物を引き取り、帰国便に乗るためミュンヘン空港へ向かった。

終章

冬を感じたヨーロッパからまだまだ茹だる暑さの日本へ、2017/9/3、帰国した。

今回も井上氏には感謝しつつ、また次の計画の相談をし始める今日この頃である。

2017/9 横浜市在住 Y.